

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670500117
法人名	医療法人 親貴会
事業所名	グループホーム もぜ
所在地	鹿児島県いちき串木野市春日町24番地 (電話) 0996-32-3033
自己評価作成日	平成27年6月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたグループホームであり、町内会に加入し地域の行事に利用者の方々と参加したり当施設で行う行事に地域の方々、子供達を招待し参加頂いている。又、当施設で行っているペットボトルキャップ回収のために月2回のリサイクルの際には、地域の方々に協力を頂くなど交流を図っている。(ペットボトルキャップは法人内施設と合同で募金団体へ寄贈している。)医療法人を母体とし、医療機関、老人保健施設、小規模多機能施設等と合同で行事や会議・研修を行い、サービスの質の向上に努めている。日常生活の中では、利用者の方々の残存能力を生かしたケアを行い、何を求めているのか本人の意向を十分に踏まえ観察・検討を行っている。また、趣味や特技等をいかし生き甲斐を見い出していけるような支援を行っている。さらに、個別で特別な日(わがままday)を設け、個別的に利用者の希望(墓参り・自宅に帰る・好物を食べに行くなど)を伺い、利用者の家族を交えた支援を工夫し、生活に楽しみを見い出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年目を迎えた当ホームは2ユニットから成り、医療法人が母体となりいちき串木野市中心部に位置している。辺りは一般住宅や商業施設、医療機関など社会資源も豊富であり、利便性の高い環境にある。

町内会に加入しており、回覧板や運営推進会議で地域情報を収集し、年4回ホームが発行する季刊誌「もぜ便り」でホームの情報発信も行っている。地域行事に招かれる事は利用者の楽しみになっている。又、ホーム行事の夏祭りや年末の餅つき大会は15年経った今では、地域の恒例行事の一つとなり、若い世代の親子連れも参加し毎年、賑わいをみせている。

職員の教育にも力を入れており、各専門分野より講師を招いた研修会は、年間を通して頻回に行われており、職員はケアを行う上での知識や意識を高く持ち、質の高いサービスに繋げている。運営者の強い思いである、閉じこもらない生活支援を重視しており、年間計画にある多様な外出支援の他、「わがままデイ」と銘打って希望に応じ、行きたい場所、食べたい物、したい事など利用者の思いの汲み取りに努め、その人らしく生活できている様子は穏やかな表情からも伺える。

災害時の炊き出し訓練や地域清掃への参加、子供たちの下校時の見守り隊の結成等、地域への貢献度も高く、開設当所から地域との交流に積極的に取り組んで来た事が実を結び、地域に根ざしたグループホームとして受け入れられている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念をホールや事業所内に掲示し理念の把握に努めている。また、理念に基づいたサービスが個別的に提供できるよう支援している。	個性を大切に寄り添うケアに努めており、理念は常に目に付く場所に掲示し意識付けを行っている。職員は個々の年間目標を掲げ、年度末に評価を行い理念に添ったケアが出来ているか再確認を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入している。施設行事に招待したり町内会の行事に参加したりし交流をはかっている。また、運営推進会議にも公民館の方々に参加して頂いている。	町内会の回覧板で季刊誌の配布を行い情報発信をしている。夏祭りや餅つきなどのホーム行事は地域の恒例行事として定着し参加も多い。子供見守り隊の結成や地域清掃にも参加し、婦人会の協力を得て、災害時の炊き出し訓練を行うなど、地域への貢献度も高い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域行事や施設行事などで入居者の方々と交流の機会を作り、触れあう事で認知症の理解が少しでも出来るように取り組んでいる。季刊誌を回覧板で回してもらい施設の紹介もおこなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。参加者は公民館長、民生委員、行政職員、家族代表等で開催し事業所報告や参加者の意見、質問等の時間を作っている。情報交換でサービスの向上に努めている。	家族、地域代表、行政職員等の参加を得た定期開催である。ホームの現情報報告や行事案内などを行い、議題はその時々に応じて設けている。今後はマンネリ傾向にある会議の内容や家族参加の増員、多方面への参加要請など見直しも視野に入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政職員を招待し参加して頂いている。市役所の担当の方には疑問点などがあれば相談し解決できる体制ができています。	介護保険制度の改定時や利用者の困難事例など相談する機会もあり、スムーズに返答を得ている。運営推進会議への出席もあり、双方で情報の共有、連携も取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回は法人内の全事業所が参加する勉強会がある。また、事業所に身体拘束委員会を設置し全体会議時に身体拘束に関する勉強会を開催している。外部の研修などがあれば職員が参加できるように取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置すると共に、法人内研修や勉強会を行い、職員は身体拘束の具体的な行為やグレーゾーンの存在についても正しく理解している。管理者は都度、ケアカンファレンスを行い、迅速に問題解決に向けており、利用者は日常的に抑制の無い自由な生活を送っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり事業所内に虐待防止廃止委員会を設置し高齢者虐待防止関連の知識の習得に努めている。また、職場の環境作りに勤め、お互い意見や注意ができるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し全体会議時に研修報告を行っている。入居者の状況に応じて情報提供ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約変更時などには家族に書面をもって署名、捺印を頂いている。不明な点などがあれば、口頭で説明し不安や疑問の解消に努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の方から日頃から意見や要望が拾えるよう環境を作っている。また、居室担当制を作りわがままDAYの実施も行っている。家族の方には面会時や担当者会議に意見や要望がないか伺っている。</p>	<p>月一度の利用料の支払い時や面会時など意見や要望の聞き取りの機会にし、改善に向けている。年4回の季刊誌「もぜ便り」や各担当職員が作成する利用者情報も家族に送付しホームの現状や生活の様子を伝えている。今後はホームの取り組みや利用者の日常生活の様子が伝わりやすい工夫や、面会が厳しい家族に向けた発信の方法なども検討する意向である。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度、全体会議とフロア会議を実施しており、職員の意見等聴く場を設けている。また、意見交換を申し送りノートや掲示板なども活用している。</p>	<p>研修や勉強会を多く取り入れ、テーマに添って、専門の講師を招く等、職員の教育には力を入れている。管理者は、問題が起きた場合はその都度、すぐにミニカンファレンスを開き、解決に向けており、職員が何でも言い易い関係性が出来ている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表などで勤務状況の把握を行っている。仕事に対しやりがいがあるよう、職員間の親睦を図る為に年に数回の親睦会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部への研修に積極的に参加し、会議等で研修の報告など実施している。また、法人内での研修や事業所での研修も行い、スタッフのスキルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会やケアマネ支部会に加盟しており、研修や勉強会、懇親会などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを聞き、できる限りの支援をしている。また、安心してもらえるよう声掛けや傾聴・外出などを行い不安の軽減を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを申し送りなどを利用し、職員が把握できるように努めている。また、年に1回家族会を行っており、意見の交換の場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを聞き、職員、連携機関と十分に話し合い、どのような対応が適切なか必要なかを検討し、対応に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人が出来る事などを把握し、残存機能を活かした支援をしている。その中で、楽しく進んで行える環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が安心していつでも来れる環境作りを行っている。また、本人の体調が悪い場合など病院受診を行う場合など、家族へ連絡を行い状態の報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	わがままDAYや個別レクを活用し、買い物や墓参り等の外出や地域の祭り等に見物を行っている。また、親戚や知人の方が気兼ねなく来訪して頂けるよう環境作りを行っている。	病院受診やリハビリ利用の際に馴染みの人に会い、挨拶や会話を交わす機会がある。ホームにも友人、知人の面会がある利用者もおり、地元の訪問理容を利用するなど馴染みの人や場との関係継が途切れない様に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内での入居者同士が話しが出来る様に席の配置を行っている。レクレーションや行事を通じてコミュニケーションが図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の場合見舞いに伺い経過の情報収集を行っている。他界された場合、通夜や葬儀への参列を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に担当職員を決め入居者と会話する事により今までの生活・趣味・希望などできる限り要望に応えるようにしている。	家族からの情報も重視している。入浴時や夜間帯のゆったりした時間帯に1対1で信頼関係を深めながら、思いの汲み取りが出来ている。記録に残し職員全員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートを読んだり入居者本人、家族の話などに傾聴している。また、入居相談の際でできる限りの情報収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活を大事にしながら新しい環境にも馴染んでいただける様に心身の状態、残存機能を知るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議、担当者会議等で入居者本人、家族の意見、職員間で出された意見やアイデア等を介護計画に反映している。	本人。家族の意向や主治医、管理栄養士など、状況に応じ関係者の意見を踏まえ作成している。個別性があり生活感が得られるプランになっている。3ヶ月毎にモニタリングを行い、現状を見極めた介護計画の作成を心掛けている。職員もプランを下にケアの確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活介護記録に残し、日々の様子や気づき等また、特変のあった入居者については申し送りを密にする事で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の急変時に対しては、かかりつけ医などに受診する。地域の自治会の行事への積極的な参加えお行い風習を忘れないよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや敬老会などに参加し子供から高齢者の方々との関わりを持てるよう取り組んでいる。子供見守り隊に参加する事で沢山の子供への声掛けが出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本人、家族の希望を尊重し納得のいくかかりつけ医との連絡を取り合い、必要に応じて職員も同行し適切な医療が受けられるように支援している。	殆どの利用者が協力医を利用しており、受診はホーム側で支援している。状況の変化に応じ、家族にも電話で報告し情報を共有している。母体が医療機関であり。急変時や夜間帯も連携がとれており安心な環境である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に相談を行う連絡体制を整えており入居者の体調等変化に気づいた際すぐに看護職員へ連絡を行い適切な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、現状や今までの経過を看護サマリーを提供し情報提供している。また、母体医療機関とは常に連絡体制は取れているので異常時は速やかに連絡が出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態が良い時から本人または家族に重度化した際の考えを伺っている。また、担当者会議等でも定期的に意向を伺っている。母体医療機関にも意向の情報提供を行っている。	重度化や終末期における看取り介護の在り方について、ホームの方針を作成し、段階に応じ家族に説明し、同意を得ている。状態変化の都度、話し合いの場を持ち、全員で方向性を共有し、夜間帯など家族の協力も視野に入れながら、ホームとしてできる最大限の支援に取り組んでいる。支援経過を記録に残すなどし、情報の共有を強化している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中夜間を問わず急変時や事故発生時の場合の訓練や勉強会を病院や施設内で定期的に行い実践力を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、うち1回は地域の方にも参加して頂いている。緊急連絡網にも地域の方々に入って頂き協力体制を築いている。</p>	<p>自主訓練を含む年2回の避難訓練を実施している。災害時の炊き出し訓練も行っており、婦人会と協働で保存食を作り地域に振る舞っている。住民の役割分担として、具体的に見守りを依頼しており、緊急連絡網に名前を明記してもらするなど、地域との協力体制も築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに対して尊厳に配慮した声掛けや接し方で気持ち良く過ごして頂けるように努め常に言葉使いにも気を付けている。	定期的に研修や勉強会を行い、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。トイレ介助や入浴支援など利用者の羞恥心には十分に配慮し、ケア全般を通して、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が今何を望んでいるのか日常生活の中で職員が気付いた事を申し送り等で情報の共有を図り相互関係を深めながら自分の気持ちを素直に出して下さる事を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が入居者のペースに合わせて見守りや意見を大事にし無理をせず本人の希望に添えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居者の行きつけの美容院にお連れしたり同じ市内の美容院の方に訪問してもらいカットしていただいている。衣類も本人が選んで着れるようにしてある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりに食べ物の好き嫌いを確認し職員と一緒に食事を食べてできる片付け等を手伝っていただいている。	外食も希望に沿える様に、個別で支援している。花見やソーメン流し、ピクニック弁当など季節の行事食も年間を通して計画されており、利用者は存分に食を楽しんでいる様子が伺える。おやつにもこだわり、毎回手作りを提供して喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態でトロミやゼリー等も使い工夫して栄養や水分を摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし一人ひとりに合った口腔ケアや歯磨きの支援を行っている。拒否等があれば時間をおいたり職員を変えたりし支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の排泄パターンを職員全員で把握し声掛けや誘導を行っている。場合によっては座位保持が困難な入居者であってもトイレに座り排泄できるよう支援している。(近くでの付き添い)	職員は個々の排泄パターンや、パットの使い分けなどを把握しており、昼夜間共にトイレへ誘導し排泄の自立に向けている。身体状況に応じて、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分量を確認工夫し、運動量にも注意しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。また、法人内の研修など便秘に関する研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の声掛けの様子を見ながら行い、入浴中話しをしたり、全身の状態伺いを聞いたり適温であるか確認したりし入浴を行っている。	回数や時間帯は希望に応じ柔軟に対応している。季節に依り柚子湯や入浴剤を利用して、リラックスして楽しめる工夫をしている。男性職員も多いが、異性介助には確認を取り、十分に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間問わず好きな時間好きな場所で安心して気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を保管し内容を把握し理解して服薬支援を行っている。食前食後の服薬時職員間で確認し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリにより一人ひとりの役割、できる事を支援している。また、わがままDAYにより入居者の希望を取り入れた外出、外食等を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や花壇の草取りまたは、ドライブ等の外出で日常的に戸外に出掛けるよう支援している。	年間を通した多彩な外出支援計画からも運営者の「閉じこもらない生活」への強い思いが感じ取れる。計画以外にも日常的に散歩や近隣へのドライブ、買い物などに出掛けており、地域行事への参加も楽しみである。「わがままデイ」の個別支援の体制も整っており、利用者は希望の場所へ出掛けるなどし、充実した生活を送っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者の欲しい物等があれば職員と一緒に買い物に出掛けられるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者より家族等へ電話の希望があった時は電話をかけて話していただいている。家族から手紙等が届けば本人に渡して読んでもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>落ち着いて過ごせるようソファを3ヶ所設置し好きなところに座っていただいている。また、季節に合った壁画や物を置き季節感が得られるよう支援している。</p>	<p>大型のソファを適所に置き、定位置の場所でくつろぐ利用者もおり、好きな時に好きな場所で過ごせる空間である。ホーム全体が臭いも無く、日頃から清掃が行き届いている様子が伺える。光に敏感な盲目の利用者には、採光を配慮し違和感のない環境設定をしている。台所からは調理の臭いが漂い、穏やかで家庭的な雰囲気が伝わって来る。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやホール内の椅子に座り過ごして頂いている。個人によってはベッドに臥床し過ごされたりと自由である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内にあるものは本人の使い慣れたものや家族の持ち込んだものが置いてある。事業所からの制限はほとんど無い。</p>	<p>趣味の作品や家族写真を飾ったり、位牌を置いて毎朝お茶を供える利用者もいる。個々が思い入れの深い馴染みの品を持ち込んであり、個別性を感じ取れ、安してくつろげるプライベート空間が保たれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内やトイレ、浴室等手すりを設置してあり安心安全に行動できるように作られている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない